

世界文化遺産のなかの都人たち

# 醍醐寺に 想いを寄せて

平成25年3月13日 水

対談 午後2時30分～

## 「醍醐寺に想うこと」

仲田 順和 醍醐寺百三世座主 田中 和博 京都府立大学大学院  
生命環境科学科教授

対談会場

## 醍醐寺三宝院内白書院

特別拝観 午後3時40分～ 特別拝観料 1,000円

## 三宝院特別拝観

三宝院純浄観 (重要文化財)

奥宸殿 (重要文化財)

本堂 (重要文化財)

【主催】 京都仏教会  
京都市

【後援】 京都市観光協会  
京都文化交流コンベンションビューロー

【協力】 醍醐寺

【特別協賛】 東海旅客鉄道株式会社

お問い合わせ・お申し込みは

京都仏教会

電話 075(223) 6975 FAX 075(223) 6976





三宝院庭園

世界文化遺産のなかの都人たち

# 醍醐寺に 想いを寄せて

平成25年3月13日 水

午後2時15分 醍醐寺三宝院前集合  
午後2時30分 対談  
午後3時40分 特別拝観

■ 対談 午後2時30分～

## 「醍醐寺に想うこと」

対談講師

仲田 順和  
(なかだ じゅんな)

東京都出身。大正大学大学院文学研究科で梵文学を学ぶ。醍醐寺執行長、醍醐寺派宗務総長を経て醍醐寺 103 世座主。

田中 和博  
(たなか かずひろ)

東京大学助手、三重大学助教授、京都府立大学農学教授を経て京都府立大学大学院生命環境科教授。専門は森林計画学。[著書] 森林計画学入門・バイオリージョン研究とGIS・古都の森を守り活かす

対談会場

## 醍醐寺三宝院内白書院

■ 特別拝観 午後3時40分～ 特別拝観料 1,000 円

### 三宝院特別拝観

三宝院純浄観 (重要文化財)

奥宸殿 (重要文化財)

本堂 (重要文化財)

【主催】 京都仏教会  
京都市

【後援】 京都市観光協会  
京都文化交流コンベンションビューロー

【協力】 醍醐寺

【特別協賛】 東海旅客鉄道株式会社

醍醐寺は聖宝理源大師が貞観16年(874)に上醍醐山上で地主横尾明神の示現により、醍醐水の豊泉を得、小堂宇を建立し、准胝、如意輪の両観音像を安置したのに始まる。のち醍醐・朱雀・村上天帝のご信仰がよせられ、延喜7年(907)には醍醐天皇の御願による薬師堂が建立され、五大堂が落慶するに至って上醍醐の伽藍が完成した。それに引き続くように下醍醐の地に伽藍の建立が計画され、延長4年(926)に釈迦堂が建立され、天曆5年(951)に五重塔が落成、下伽藍の完成をみた。その後、真言宗小野流の中心寺院として仏教史において重要な地位を占め、政治の中心にあつた人達との交流も深く、例えば藤原一族に代わって大きい権力を持っていた権門源俊房の系統(醍醐源氏)の人が座主として幾代も続いた。そして座主勝覚(俊房の息)の時代に伽藍が整備され、永久3年(1115)に三宝院が建立され醍醐寺発展の基礎が確立された。

その後、隆盛を極めた醍醐寺も永い年月の間に幾度かの火災と殊に応仁・文明の大乱によって下伽藍堂宇はことごとく灰燼に帰してしまつたが、幸いにも五重塔(国宝)だけが難を逃れ、天曆盛時の姿を今に留めている。また准胝観音を祀る観音堂は「西国第十一番札所」として、五大堂は「五大力さん」信仰の中心として、広く信仰を集めて現在に至っている。藤原末期から鎌倉時代にかけては、政治的変動から遠ざかり小野法流・教学の充実がはかられた時期となつた。そして、醍醐寺の歴史を明確にするために、「醍醐雑事記」15巻が慶延によって編集された。また教学研究の成果の一部である多数の密教絵画、聖教類と共に仏像研究のために描かれた図像抄、白描図像が現在でも多く残されている。

南北朝時代には醍醐寺内部において、後醍醐天皇と弘真(文親)、足利尊氏と賢俊の交渉などがあつて、二派にわかれて対立した状態が続いた。その当時の政治的緊張を示す資料がいくつか残されている。特に政治の中心との交流を深く保つて、伽藍の復興、寺門の整備に大いに力を尽くしたのは、応永・永享年間のころ座主であつた満済准后と桃山時代の義演准后である。共に詳細な日記を残して、その対外的活躍の概略を知ることができるが、それにもましてこの人達が文化財の保存に心を尽くしていたことが、裏書や奥書などによって知られる。また義演准后は豊田秀吉と関係を持つて、その力によって伽藍、三宝院殿舎・庭園の復興をなすと共に、一代の英雄の最後をかざる善美を尽くした醍醐の花見を催させたことによって知られた人である。

江戸時代に入り、修験道中興の祖・聖宝により継承されてきた三宝院に属する修験(山伏)を「当山派」と称する許可を幕府より得、座主高賢の大峯入峰により醍醐の教風がひろまつていった。現在もその法流を汲み花供入峰修行が行われている。江戸末期の混乱と明治維新以後の変革の波は大きく、仏教各宗派全般の傾向にしたがつたように、幾多の子院は廃亡し伽藍と中心的子院だけが残つた。現在、それらの建築の主要なもの多くが、国宝や重要文化財に指定されている。また一山の宝物・十数万点は霊宝館に収蔵保存され、一般に公開されている。

### 【醍醐寺へのアクセス】電車(地下鉄)と徒歩

\*JR 京都駅から、JR東海道線または琵琶湖線約5分で山科駅。京都市営地下鉄東西線に乗り換え、約8分の「醍醐駅」下車。あるいは JR 奈良線・六地蔵駅、京阪六地蔵駅で地下鉄東西線に乗り換え、約4分の「醍醐駅」下車。2番出口より東に徒歩10分、または駅ビル「ハセオタイコロ」2階より、通路東に徒歩10分。

### 路線バス(京阪バス)

\*バス停「醍醐寺」下車  
・京都駅八条口から ホテル京阪前(山急醍醐寺ゆき乗り場)所要時間 約30分  
\*バス停「醍醐三宝院」下車  
・JR山科駅から1番乗り場(22,22A系統乗車)所要時間:約20分  
・京阪六地蔵駅から2番乗り場(22,22A系統乗車)所要時間:約15分  
※JR六地蔵駅からの場合は、「JR六地蔵」バス停から乗車(22, 22A系統)

お問い合わせ、お申し込み

京都仏教会

電話 075(223)6975 FAX 075(223)6976